

「生活道路対策エリア」の取組事例(神奈川県横浜市大倉山三丁目地区)(ハンプ・狭さく)

よこはま おおくらやま

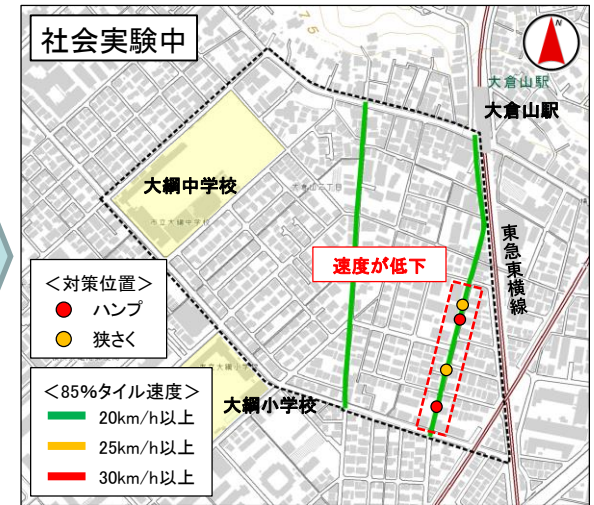
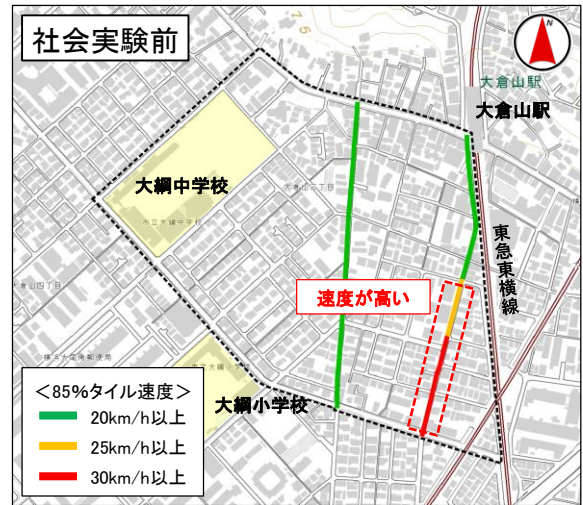
- 横浜市大倉山三丁目地区では、歩行者・自転車事故件数が多く、車両の平均旅行速度が高く、該当地区を抜け道として利用する車両が多い状況にある。
- ビッグデータを活用し対象路線の抽出を行い、速度抑制を目的とした実証実験を実施(可搬型ハンプ、狭さくを設置)。
- 対象の道路では規制速度30km/hを超過する車両の割合が12%減少し、全車両の平均速度は約10km/h低下した。

取組の概要

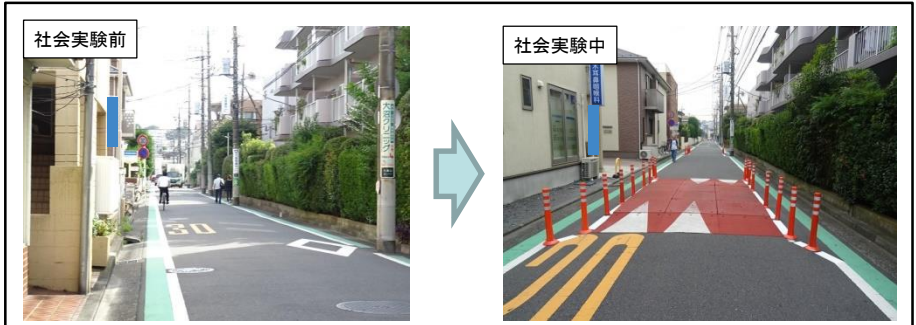


- 検討会の開催
住民、学校関係者及び関係機関で対象道路の安全対策に関する検討会を開催し、生活道路の対策を検討
H29.2：交通状況の共有、課題抽出
H29.9：対策検討、ハンプ体験会の実施
H30.1：実証実験の効果検証、今後の対策

ビッグデータ分析結果



整備状況



可搬型ハンプ・狭さくを設置(H29.10.6~11.1)

整備効果

○速度指標の変化状況

	30km/h超過割合	平均速度
	対象路線	対象路線
社会実験前	18.9%	32.6km/h
社会実験中	7.3%	22.9km/h

(▲11.6%) (▲9.7km/h)

【出典】1. 履歴点データ：ETC2.0プローブデータ(社会実験前：H29.9.6~9.30、社会実験中：H29.10.6~10.30)
2. 背景地図：国土地理院